

2010 FIFA WORLD CUP SOUTH AFRICA™における  
ボール奪取後の速攻に関する研究 - ベスト4に進出したチームに注目して  
A research of the fast break after taking the ball in the FIFA World Cup  
South Africa™ in 2010 - focusing on the best 4 teams

田村達也<sup>1)</sup>, 堀野博幸<sup>2)</sup>, 瀧井敏郎<sup>3)</sup>, 土屋 純<sup>4)</sup>  
Tatsuya Tamura<sup>1)</sup>, Hiroyuki Horino<sup>2)</sup>, Toshiro Takii<sup>3)</sup>, Jun Tsuchiya<sup>4)</sup>

1) 早稲田大学スポーツ科学研究科

2), 4) 早稲田大学スポーツ科学学術院

3) 東京学芸大学

1) Graduate school of Sport Sciences, Waseda University

2), 4) Faculty of Sport Sciences, Waseda University

3) Tokyo Gakugei University

キーワード: サッカー, 戦術, 速攻

Key words: soccer, tactics, fast break

**【抄録】**

現代サッカーにおける攻撃は、ボールを奪った後の速い攻撃である「速攻」と意図的にボールを動かしていく「ポゼッション」に大きく分けることができる。2010年FIFAワールドカップ(以下WCと略記)では、意図的にボールを動かしていくポゼッション攻撃が注目を集めた。一方で、ボールを奪った後の速い攻撃は、得点を奪うための重要な手段であることに変わりはない。

本研究では、2010年WCでベスト4に進出したチームについて、ボール奪取後の速攻を可能にする要因とシュートに至るまでの過程を明らかにすることを目的とした。まず、チームごとに速攻を抽出し、6つの分析項目(①ボール奪取位置、②ボール奪取後のプレー、③ボールを奪ってからのパスの方向、④シュートに至るまでのパス本数、⑤シュートに至るまでのボールの総移動距離、⑥シュートに至るまでの攻撃の幅)から速攻に関して検討した。その結果、「②ボール奪取後のプレー」、「③ボールを奪ってからのパスの方向」に関して、4チームに共通した特徴がみられた。4チームともボール奪取後のプレーに関して、ボールを奪った選手が1タッチ目で直接味方選手へパスした割合が最も高いこと、またボールを奪ってからのパスの方向に関し、前方の場合に速攻が成功する割合が高いことが明らかになった。

本研究の結果より、世界トップレベルでは、ボール奪取後の局面において可能な限り少ないタッチ数と前方向にパスをつなげることが速攻を可能にする要因であることが考察された。

スポーツ科学研究, 10, 164-172, 2013年, 受付日:2012年10月30日, 受理日:2013年5月15日

連絡先:田村達也 〒202-0021 東京都西東京市東伏見2-7-5 体育教室棟205

早稲田大学スポーツ科学研究科 E-mail: a051627tatsu@fuji.waseda.jp